

地質情報研究部門の佐藤善輝氏が 日本第四紀学会奨励賞を受賞

地質情報研究部門平野地質研究グループの佐藤善輝氏が2017年日本第四紀学会奨励賞を受賞しました。奨励賞とは、日本第四紀学会の学会誌である「第四紀研究」に優秀な論文を発表した筆頭著者で、35歳未満の若手研究者に贈られる賞です。対象となった論文は、佐藤善輝・藤原 治・小野映介(2016)「浜松平野西部における完新世後期の浜堤列の地形発達過程」第四紀研究, 55巻1号, 17-35ページの論説です。

この論文は、浜松平野における浜堤列の発達プロセスを、堤間湿地や溺れ谷低地の環境解析から復元したものです。20本の浅層ボーリング掘削を行い、コア試料から炭素年代測定と火山灰分析に基づき精細な年代コントロールを行い、層相解析と佐藤さんの専門である珪藻化石群集解析からこの地域の数千年間にわたる古環境の変遷を復元しました。その結果、浜堤列平野が海側へ一方的に広がるだけではなく、時折沈降していたことを発見しました。この知見は古環境研究だけでなく、完新世の海水準変動や南海トラフ巨大地震の履歴の解明にも寄与することも評価されました。



受賞した佐藤善輝さん

佐藤さんは大学院生の時から現在に至るまで、浜松平野の地形発達の研究に取り組んで来ました。共著者の藤原 治氏(地質情報基盤センター)や小野映介氏(新潟大学)、ほかにも第四紀学研究の第一人者ともいえる多くの研究者とともに共同研究を展開しており、成果を上げています。また、珪藻化石の分類学的視点からも古環境研究に資するテーマを独自に開発しており、広い視野を持った研究者と言えます。佐藤氏は現在、「沿岸域の地質・活断層調査」に携わっており、GSJの先輩研究者らとともに相模湾や伊勢湾沿岸の研究に精力的に取り組んでいます。これまで蓄積してきた知識や経験を活かし、今後の研究の飛躍を多いに期待しています。

(産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門 中島 礼)

地質情報基盤センターの大和田朗氏が 「日本地質学会功労賞」を受賞

地質情報基盤センター地質標本館室地質試料調製グループの大和田朗キャリア主幹が、2017年9月16日（土）に、愛媛大学で開催された日本地質学会2017年学術大会（2017愛媛）において、「日本地質学会功労賞」を受賞しました。

大和田朗氏は、1981年に産業技術総合研究所の前身である通商産業省工業技術院地質調査所に入所し、現在に至るまで35年にわたり薄片・研磨片の作製に従事してきました。この間、大和田氏は、従来の薄片作製方法による試料作製のみならず、ナノチューブ状構造を持ち吸水性が高く薄片化が難しかったイモゴライトについて乾式法により世界で初めて薄片作製に成功するなど、新しい薄片作製方法を開発してきました。また、全国の薄片作製技術者を長らく指導してきた人材育成の実績を含めて、地質学の研究・教育の発展に大きく貢献したことが評価されたものです。

大和田氏の今後のさらなる活躍を期待いたします。

（産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター）



表彰式の様子。大和田朗氏（左）と渡部芳夫日本地質学会会長（右）。